

※記載例を参照の上、ご記入ください。

(様式第3号)

企業・団体名(株式会社タカベ精工)

SDGs達成に向けた具体的な取組 (要件2) 【R5.11.30様式改定】

カテゴリー	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合 選択入力	【予定】の場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本			・雇用、教育、昇進・登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築している					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
2	【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本			・経営のトップを相談窓口としおり、ハラスメント禁止の遵守を心がけている					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
3	【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本			・多能工化を推進し、属人化を防ぐことで、業務が平準化され過度な長時間労働を防止できている								8.5 8.8									
4	【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本			・現在、外国人労働者はいないものの、採用した場合は、差別や人権侵害が発生しない体制を構築する。				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3							
5 人権・労働	【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本			・現場の整理整頓は徹底し、すべての機械装置に安全装置を取り付け、安心安全な職場づくりをしている			3					8									
6	【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本			・従業員との会話を常に持ち、年に3回ほどは個人面談を実施し、メンタル面のケアを心がけている			3														
7	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本			・作業の平準化を図った結果、だれでも活躍できる環境となり全体の3割が女性となった。多様な人材が活躍できる環境を全社員で推進している					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
8	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本			・従業員同士で交代に講師となり、図面の見方、機械の操作方法等を学び合っている ・資格取得については会社全額負担とし、資格取得を推奨している				4	5.5			8	9								
9	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本			・顧問社労士と相談の上で、法令に則った対応を行っている					5.5			8.5		10.2 10.3							
10	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ			・毎年、全社員の健康診断を実施し、年齢ごとに人間ドックの受診をしている(費用全額会社負担)			3					8									
11	【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本			・業者に依頼の上で、マニフェストを適切に管理しているほか、社内においても分別を徹底している											11.6 12.4		14.1				
12	【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本			・SBT(Science Based Targets)を取得し、2022年比で温室効果ガス排出量42%減に取り組んでいる							7.3					13					
13	【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本			・省エネタイプの生産設備を2台導入 ・社用車をハイブリット、電気自動車への切り替えやグリーン電力の使用量を年々増加させるなど、取組を加速させていく							7.2 7.3				12.4	13.3					
14	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	【非該当】		・現在有害化学物質を使用していない ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用する場合は適切な管理を徹底する			3.9			6.3					11.6 12.4						

カテゴリー	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合 選択入力	【予定】の場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
15	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本			・工場内ダストなど環境に影響のある物質について、外部に漏れないようフィルター等の設置、集塵機の設置により徹底対策をしている						6.6									15		
16	【3Rの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本			・信頼できる外部業者に依頼し、金属材等のリサイクルを徹底している												12.5		14.1			
17	【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ			・普段から水道使用量の把握に努め、事務所内で節水を心がけている						6.4 6.6											
18	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ		【予定】	・現在取得していないが、検討していく			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ			・SBTの取組を推進し、温室効果ガスの排出量と取り組みの進捗状況を年1回開示する。また定期的に目標の妥当性の確認し、温室効果ガスの排出削減に努める												12.6					
20	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ			・太陽光発電に取り組んでいる ・今後はグリーン電力の使用量をさらに増やしていく						7.2							13				
21	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ			・社内で材料を余すことなく有効利用する方針を掲げており、ムダ削減により無駄な調達がないよう取り組んでいる												12.2	13	14	15		
22	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本			・汚職・贈収賄を徹底的に禁止していることを毎月の会議で周知している																16 16.5	
23	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本			・当社は公正な競争を行うことを社員に周知徹底し、取り組んでいる																16	
24	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本		【予定】	・現時点では特許・商標等の知的財産権は保持していないが、今後取得した際に管理体制を整備する								8.2 8.3	9								
25	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本			・外部への持ち出し禁止しているほか、担当者以外は取り扱いえないように施錠やアクセス制限する等、体制を整えている																16	
26	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ			・今現在、取り扱っていないことを確認している																16	
27	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ			・自社の取り組みを仕入れ先や協力会社等を含めたサプライチェーンで共有し、取り組みを理解していただいている					5		8		10			12	13	14	15	16	17
28	【パートナーシップ構築宣言】(R5.9.5～追加) ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本			・パートナーシップ構築宣言をすでに公表しており、取引先との連携強化と共存共栄への取組を推進している			3				8	9	10								17

	チェック項目	取組 レベル	【非該当】 の場合 選択入力	【予定】の 場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
29	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本			・機械装置の管理や製品管理に、最大限の注意を払い、高品質で安全性の高い製品を製造している			3.9								12.4						
30	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本			・最終検査工程を設けるなどして、徹底的に品質保証に取り組んでいる ・取引先からの要望やクレーム等を社内でも共有し、品質の向上に努めている								9									
31	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ			・自社で使用する資材を中心に、環境配慮に則した仕入れを行なっている					6						12	13	14	15			
32	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ			・製造の過程での廃棄物を減らす取組を行っている	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
33	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本			・地域行事や団体へ積極的に参加し、対話の機会を設け、自社の事業がその地域に及ぼす影響の把握、改善に努めている				4					9		11	12		14	15		17
34	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ			・日本赤十字への寄付、地域のボランティア活動を行っており、今後も積極的に関与していく				4							11			14	15		17
35	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ			・地域の資材会社から積極的に仕入れを行ない、地域企業と協力して生産し、県外顧客に向けて製品を提供している									8	9		11	12	13			
36	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有している	基本			・年頭で経営方針を示し、月次会議の際にも共有するなど社内での浸透を図っている									8	9							17
37	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本			・会議において、報道されている企業の問題を取り上げるなどして、コンプライアンスについて考え、理解を深めている																	16
38	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本			・経営トップを中心に対応する体制整備をしている																	16
39	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本			・定期的にステークホルダーと対話を行い、自社及びステークホルダーの間で情報共有に努めている																	16 17
40	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ			・ハザードマップを確認し、リスクを把握している ・工業団地内の企業とリスクを共有している																	16
41	【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ			・地域貢献活動と地域雇用のほか、地域の環境整備に向けた取り組みなども行なっている																	16
42	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ			・事業継続力強化計画を策定済である									9		11		13 13.1				16
43	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ		【予定】	・今後取組をしていく								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組		具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前の【予定】を選択入力してください。）

・【非該当】欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合に選択入力し、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、NAGANOものづくりエクスセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）

- この「要件2」は、ISO26000（※1）、RBA（Responsible Business Alliance）（※2）行動規範等を参考に、非財務情報（SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項）について整理し作成
- 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は黒字、間接的（結果として）に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、赤字で番号を記載
- 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載
- ※1…組織の社会的責任に関する国際規格 ※2…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定